

# 道徳学習指導案

福山市立城東中学校

- 1 日時 2014年(平成26年)11月21日(金)3校時
- 2 学年 第3学年
- 3 主題名 弱さの克服 [内容項目3-(3)]
- 4 ねらい 智行の心の葛藤・変化を考えることを通して、人間には弱さや醜さがあり、それを克服しようとする強さや気高さがあることを信じて生きていこうとする態度を育てる。
- 5 資料名 「二人の弟子」 (出典 文部科学省「私たちの道徳」)
- 6 主題設定の理由
  - (1) 主題観 人間は決して完全なものではなく、弱さをもっている。しかし、それを乗り越え次に向かって行くところに人間の素晴らしさがある。ときとして様々な誘惑に負け、易きに流れることもあるが、両親の責めと戦いながら、呵責に耐えられない自分の存在を深く意識するようになる。そして、人間として生きることへの喜びや人間の行為の美しさに気付いたとき、人間は強く、また、気高い存在になりうると考えられる。
  - (2) 生徒観 中学生の時期は、人間が内に弱さや醜さをもつと同時に、強さや気高さを併せてもっていることを理解することができるようになってくる。自分に自信がもてず、劣等感やねたみをもつ一方で、崇高な人生を送りたいという人間のもつ気高さを追い求める心もある。  
本学級の生徒は、自分の思いや要求を強く押し出す反面、なかなか他人の迷惑や苦しみに気付くことができない生徒が多く、自らの心の弱さや醜さをじっくり振り返ることが苦手である。「自分の心の中の葛藤に打ち勝てたことを書いてみよう」という事前アンケートにおいても、無回答・「わからない」という回答が約半数あり、「遊びたいけど、勉強した」などの回答が1/3近くあり、様々なことに挑戦する体験が不足している生徒が多い。
  - (3) 指導観 本資料は、仏教の修業を志した智行と道心が自らの弱さや醜さと向き合い、それを乗り越え志を貫こうとする姿が描かれている。意志の弱さから道を踏み外してしまう道心と、潔癖なゆえに悩み苦しむ智行のうち、智行に焦点を当てて、生きるとはどういうことかを考えさせたい。  
指導に当たっては、上人から「人はみな自分自身と向き合って生きていかねばならない」と言われ、その意味を図りかねる智行が、月に照らされた純白に輝く一輪の白ゆりを見て涙して立ち尽くす場面を中心に据え、人間のもつ弱さと気高く生きたいと願う気持ちに共感させることで、自らの心の弱さや醜さと正面から向き合い、よりよく生きる態度を育成したい。
- 7 準備物 読み物資料「二人の弟子」、感想用紙

8 学習指導過程

	学 習 活 動	主 な 発 問 と 生 徒 の 心 の 動 き	指 導 上 の 留 意 点 (○) 評 価 (◇)
導 入 (5 分)	1 「生きる」を貼る	○今日も生き方について考えよう。	○簡潔に授業に入る心構えを持たせる。
展 開 (4 0 分)	2 範読を聞いて話し合う 3 智行と道信のこれまでの生き方を整理する	○智行と道信はどんな生き方をしてきたか。 (智行) ・名家の三男、都で修行を終え、立派な僧侶に成長 ・道信に対して怒りの思い (道信) ・孤児、都で修行中に白拍子と出奔(駆け落ち) ・白拍子に捨てられ、酒浸り、盗みも ・結婚し、まともな暮らしをしようとしたが、妻を亡くして再び酒浸り→生きる意欲をなくす	○2人を分けて板書し、生き方を対比させる。
	4 智行の怒りの理由を考える	○なぜ智行は怒りが込み上げてきたのか。 ・修行の途中で裏切った者を許すのはおかしい ・真面目に修行している自分たちはどうなるのか ・罪を犯した道信が許されるなんてずるい	○裏切った道信への智行の思い(怒り)を共有させる。 ○わからなさが怒りに変わる心情を読む
	5 智行の涙の意味を考える	【中心発問】 ◎「白百合の花を見て涙が止まらなかった」時、智行は何を考えていたのか。 (情けなさ・恥ずかしさ) ・人として大きく変化した道信を見抜けない、自分の情けなさ ・道信を責めている愚かさ、弱さ ・道信を許すことができない心の狭さ ・道信に対して嫉妬する自分が悲しい ・道信を許した上人への怒りしか持てなかった自分が恥ずかしい (感動) ・夜の闇の中に、たった一輪純白に咲く白百合の気高さ ・すべての「悪」と呼ばれることを乗り越えて生きる道信のすごさ ・そんな道信を許し認める上人の器の大きさ (決意) ・他と比べてはいけない、道信は道信、自分は自分 【深める発問】 ○智行が白百合の純白の輝きに圧倒されたのはなぜか。 ・暗い夜の闇の中に、たった一輪純白に咲く気高さ =雪の下で鮮やかな薄緑色に咲くフキノトウ =女性との駆け落ち、酒浸り、盗みなど、すべての「悪」と呼ばれることを乗り越えて生きる道信	○白百合の花を見て、智行の心に芽生えたもの、智行の心情の変化に深く迫る ○修業をすることはどうということかみつめ、弱い自分と正直に向き合ってさらに人として成長しようとする智行の思いを生徒と共有する ○「善人尚もて往生をとぐ、いわんや、悪人をや」の考え方 ○「泥田にこそ咲く蓮の花」の考え方
終 末 (5 分)	6 授業の感想を書く	○今日の感想を書こう。 ・二人の生き方は違うけど、人には乗り越える強さがある。 ・自分の器の小ささに気付いたからこそ、白百合の輝きに圧倒されたのだろう。自分もそんな風に自分と向き合い、それを乗り越えていきたい。	◇自己の弱さ醜さと向き合い、それを克服することでよりよい生き方に近づこうとする態度を養うことができたか

生きる

二人の弟子

智行と道進は、それぞれどんな生き方をしてきたか

智行

- ・名家の三男，学問一辺倒
- ・都で修行を終え，立派な僧侶に成長

道信

- ・道信に対して怒りの思い
  - ・孤児，都で修行中に白拍子と出奔（駆け落ち）
  - ・白拍子に捨てられ，酒浸り，盗みも
  - ・結婚し，まともな暮らしをしようとしたが，妻を亡くして再び酒浸り
- ↓生きる意欲をなくす

なぜ智行は怒りが込み上げてきたのか

- ・修行の途中で裏切った者を許すのはおかしい
- ・真面目に修行している自分たちはどうなるのか
- ・罪を犯した道信が許されるなんてずるい

白百合の花を見て涙が止まらなかつた時，智行は何を考えていたのか

（情けなさ・恥ずかしさ）

- ・人として大きく変化した道信を見抜けない，自分の情けなさ
- ・道信を責めている愚かさ，弱さ
- ・道信を許すことができない心の狭さ
- ・道信に対して嫉妬する自分が悲しい
- ・道信を許した上人への怒りしか持てなかつた自分が恥ずかしい

何

（感動）

- ・暗い夜の闇の中に，たった一輪純白に咲く白百合の気高さ
- ・女性との駆け落ち，酒浸り，盗みなど，すべての「悪」と呼ばれることを乗り越えて生きる道信のすごさ

（決意）

- ・そんな道信を許し認める上人の器の大きさ
- ・他と比べてはいけない，道信は道信・自分は自分
- ・もつと人として大きくなりたい

智行が白百合の純白の輝きに圧倒されたのはなぜか

- ・暗い夜の闇の中に，たった一輪純白に咲く気高さ
  - ・雪の下で鮮やかな薄緑色に咲くフキノトウ
- || すべての「悪」と呼ばれることを乗り越えて生きる道信